

第8回日中建築・住宅技術交流会議 及び 視察（西安、敦煌、北京）参加報告

第8回日中建築・住宅技術交流会議（WCC 会議）

1. 全体日程：2017年10月8日（日）～13日（金）
2. 主催機関：日本側；（一財）日本建築センター、（一財）ベターリビング
中国側；中国建設科技集团股份有限公司
3. 会議日時：2017年10月9日（月）
4. 会議場所：西安君楽城堡酒店 永寧殿
5. 参加機関：



日側：（一財）日本建築センター4名
（一財）ベターリビング4名、国土交通省1名
日中建協：7社9名と事務局1名、10名
住友林業株式会社 2名
積水ハウス株式会社／大和ハウス工業株式会社
TOTO 株式会社 各1名
日本総合住生活株式会社（JS）3名
パナソニック株式会社／株式会社LIXIL 各1名
日中建築住宅産業協議会 1名
中側：中国建設科技集団6名、オブザーバー22名

6. 中側発表について

- 1) 中国既存居住区改修の現状と発展 中国建築標準設計研究院 劉東衛総建築師
2000年以前の老朽化団地において、①インフラの老朽化（67.2%）、②耐震措置がない（21.4%）、③省エネ対応50%未満（40.2%）、④バリアフリーなし（47%）、室内に独立キッチンとトイレがない（13.3%）。
改修の歩みとして、1980年以前の開始期前→2000年までの探求期→2000年から2016年までの構造転換期。2016年以降は持続可能なサステナブル期に入った。
- 2) 高齢化社会における既存建築の改修と活用 中国建築設計院国住人居会社 姜霓総経理
先の発表で老朽化団地における問題点が5つ示されたが、高齢化対応はこれからの課題。
中国の介護者の居住形態は、自宅90%・コミュニティ介護7%・介護施設3%。既存住宅の改修基準は、省エネに関連するものは多いが高齢者に関するものは少なく不明確。

7. 日側発表について

- 1) 日本の住宅リフォームの状況 CBL 総合企画部 岩田英之部長
日本では新築住宅着工戸数が減少する中、政府はリフォーム市場の拡大を掲げている。現状の市場規模は6～7兆円で推移しているが、2025年までに1.7倍の12兆円を目標としている。
- 2) 集合住宅のリノベーション 首都大学東京 深尾精一名誉教授
リフォームに関する日本国内の地域性を重視したバリアフリー化の事例紹介があり、フランスやオランダの事例も紹介された。
ストック住宅の活用を図るには、機能の向上だけではなく市場メカニズムを将来の要求に適合する街のあり方に変化させることが必要。
- 3) JSにおけるリノベーション～マンション再生への取り組み～
日本総合住生活株式会社 廣兼周一代表取締役社長
リフォームが必要な理由：①昔の生活に合わせた設計、②全体的な老朽化、③家族構成・暮らし方に変化。
技術開発：後付けエレベーター、段差解消、出窓取付、エコ塗料、断熱化、防犯対策
工法開発：低騒音や施工期間短縮のための工法と工具の開発

8. 会議の総括 中国建設科技集団 孫英副総裁

中国の既存住宅面積は世界一ではないかと思われるが、今後これら住宅の改修が社会にとっての

課題となる。そのような時期に日本との深い交流が持てたことは非常に意義がある。この会議は、日中両国にリフォーム技術の発展にとって大きなメリットがあると信じる。具体的なプロジェクトを通じた協力を行いたい。

9. 覚書調印

日中双方より共同で、会議が成功裡に終了し成果が得られたことの報告があった。2018年、日本において「第9回日中建築・住宅技術交流会議」を開催することに日中双方が同意し、3機関の代表者が署名を行った。

視察（西安、敦煌、北京） 参加報告

1. 視察日程

- 10/9（月） 午後 西安の歴史等に関する視察
- 10/10（火） 午前 西安の歴史建造物視察 午後 敦煌の観光地視察
- 10/11（水） 午前 敦煌の歴史建造物視察
- 10/12（木） 午前 北京の歴史的町並み視察 午後 北京のリフォーム物件視察

2. 西安視察



会議終了後、午後から兵馬俑を視察。私たちが普段見ている兵馬俑は土色の兵と馬と俑ですが、実はきちんと彩色が施されていたことを聞き驚きました。出土して少し時間が経つと色が落ちてしまうようで、その色を保存する技術が確立していないため、埋め戻したものやまだ発掘が出来ないという状況だそうです。

その後、華清宮へと向かい、玄宗皇帝と楊貴妃が使った温泉の浴室（殿）を見学し、夕食後には、唐の詩人白樂天による長編詩「長恨歌」の歌劇を鑑賞しました。

翌日の午前中、生憎の雨のなか大雁塔を見学。三蔵法師がインドから持ち帰った経典や仏像などを保存するために建立された塔は7層で、その最上階には東西南北にそれぞれ窓があり、そこから望む街並みは美しい碁盤の目でした。

3. 敦煌視察



西安から敦煌へ飛行機で約2時間半の移動。かなり西へ移動するため、夕刻に着いても夕刻という感じは全くしません。ホテルチェックイン後、鳴沙山へ砂漠の街を体感に。駱駝が似合う観光地でした。

翌日は、敦煌の代名詞とも言える莫高窟を見学。まずは、莫高窟の歴史や発掘の経緯、代表的な仏像や壁画などをプラネタリウムのような映像室で紹介があり、そこから専用バスで鳴沙山の東に掘られた莫高窟へ移動。700以上の石窟があり400数十の石窟に壁画や塑像が残されています。

4. 北京

帰国の前日、北京では今回の会議の議題であったリフォームの現場2カ所を見学。

1カ所目は、外交部住宅で省エネと補強のための改修。給排水、キッチンタイル、外壁等を入居しながらの施工。2カ所目は、2000年に建築された集合住宅。外壁を内断熱から外断熱へ変更。サッシの交換を行いエアコン室外機の置き場所を確保。公共部分の配管等インフラ整備など。

この分野については、省エネ、耐震、高齢化対応なども大きく関係するため、今後、日中間の協力がより求められるのではないかと思います。

詳細については、会報誌「日中建協 NEWS」No.230号（2017年11・12月号）に記載しています。